



新モンゴル高校より先生と留学生来校

NO.80

11月18日（月）に本校の学術提携校である新モンゴル高校から数学科のエンフサイハン先生と高校2年生のO・ミシェール君が来校しました。本校数学科と新モンゴル学園とはこれまでも交流が続いており、過去にもウランバートルより数学の先生をお招きしたことがあります。エンフサイハン先生には1週間の滞在中、中学生と高校生の教室で特別授業を実施していただきました。大変好評で生徒諸君からはもっと先生の話を知りたいという反応が示されたそうです。今回来日したミシェール君はモンゴル国内では数々の数学コンテストに入賞してその名をとどろかせている優秀な生徒です。国際数学オリンピックモンゴル代表として2年連続でメダルを獲得しているそうです。今夏のスタディーツアーの引率教員でもある数学科主任川崎先生の高校2年8組に所属して日本での学校生活を体験してもらいました。ミシェール君は2週間の日本滞在期間の内、約1週間を本校高校2年生の生徒宅でホームステイをしました。新モンゴル学園は日本式教育制度を取り入れているため日本には馴染みがあるはずなのですが、実際の様子はどうだったのでしょうか？次号で詳しくお知らせしたいと思いますのでどうぞお楽しみに。

本校校長室にて



左から 新モンゴル学園卒業後に日本の大学に通う同校OG
ミシェール君
柴田校長先生
エンフサイハン先生

The World Scholar's Cup (WSC) 最終ラウンドに高校2年生3名が出場

WSCとはディベートやライティングなど4種類の競技を3人1チームで競うものです。本校の高校2年生荒牧和哉君、平田泰之君、鍋谷総一郎君は5月の国内予選を通過し、7月にハーグで実施された世界大会に駒を進めました。世界大会は他の2都市でも実施されており、それぞれのトップ10～30チームに入ったチームは1月にアメリカで実施された最終ラウンドに参加します。本校のチームは見事最終ラウンドの出場権を獲得し、11月7日～16日まで大会会場となったアメリカ・コネチカット州のイエール大学まで行ってきました。後輩も後に続いてほしいとチームとしてメッセージを寄せてもらいましたのでぜひご覧ください。

World Scholar's Cup 参加報告

高校2年1組 荒牧 和哉・4組 平田 泰之・7組 鍋谷 聡一郎

私たち3人は11月7日から16日にかけてイエール大学で開かれたWorld Scholar's Cup(以下WSC)の決勝大会に参加してきました。

WSCとは、順にRegional Round(国内予選)、Global Round(世界大会)、Tournament of Champions(決勝ラウンド)からなる大会で、与えられた資料をもとに、4つの競技(Challenge, Collaborative Writing, Debate, Team Bowl)を3人1チームで競う大会です。私たちも参加前は同じだったように、単に英語さえできればある程度は上位に入れると思われがちな大会ですが、実際は大会が始まる前の下調べで半分は勝負がついていると言っても過言ではありません。4競技の一つであるディベートだけは、WSCのための勉強だけでカバーできるものではなく、それなりの英語力が必要です。ここで述べている下調べや勉強とは、5月の予選よりも前に公式により発表されている6科目です。各教科、何十もの資料が掲載されるので、それを各自調べて自分なりにまとめ、そして最後はそれを全て暗記することが必要です。

Challengeとは、その予め言われている6科目のペーパーテストを解くものです。3人全員が別々で受けるので個人戦ではありますが、チームにとっては3人の合計成績が重要です。一人2教科ずつ勉強して教え合う、というのがほとんどのチームが採用している勉強法なので、結局は努力した者勝ちのチーム戦です。私たちのチームはチーム最多の4科目での受賞と、鍋谷が日本代表全体の中でも上位に牽引してくれました。Debateはとにかく、2、3戦目の相手であった、インドネシア人チーム、オランダ人チームに圧倒されました。普段からそんなに饒舌なのかと疑わざるを得ない場面も何度かあり、全く歯が立たないまま完敗でした。生憎、そのオランダ人チームは全体2位という結果に終わっていたので、負けはしたものの良い経験ができたと思います。最後に負けが続いた事もあってからなのか、メダル受賞できたのは平田のみとなりました。Collaborative Writing, Team Bowlはともに、シドニー(Global Round)では日本代表1位通過であったので、今回も自信を持って、(トップ10のみが受賞できる)トロフィー獲得を目標に挑みました。Writingは調子の良し悪しが出やすいですし、そもそも今までに比べたら周りのレベルが格段に高かった事もあり、個人では荒牧のみの受賞、チームとしては残念ながらメダル圏内にも入りませんでした。Team BowlはWSC特有の競技であり、課されていた6教科にまつわる質問が延々と5択で出題されます。これはChallengeとは違い、3人で力を合わせて解くものなので、落ち着いて解き進めることができます。1問ごとに解答を決めたら答えを教えてもらえるシステムなので、自チームの正答率はその場でわかります。

良い成績を残してきた今までの大会とはほとんど変わらない感じでしたが、ここでもメダル受賞ま
してやトロフィー受賞の夢は叶いませんでした。

全体を通して気づけたことは、とにかく世界の壁が高いことです。特に東南アジア諸国の勉強の
出来には目を見張るものがありました。ディベートなどでは負けはしたものの、共に競ったこと自
体が良い経験となりました。また、全大会を通して多様な価値観を実感することができました。私
たち自身、3人とも海外での経験があるのですが、アメリカ・イギリス・カナダでは知り合うこと
のなかった人種・国籍の方と1週間を過ごすことで、たくさんの刺激を受けることができました。
バハマやケニアなど喋ることのほとんどないような国の、勉強に意欲的な同年代の人たちと熱論を
交わすことは、人生で何度もできることではありません。ここ数ヶ月の体験は将来何かしらの活か
せることだと思います。

最後にこの場を借りて、お世話になった先生方への感謝の意を申し上げたいと思います。特に新
貝先生は、シドニー大会終了後に、決勝ラウンドに出場するか迷っていた僕たちを後押ししてくだ
さった事で、イエール大学で一生ものの経験をすることができました。

現在の中1から高2なら、来年度大会に出場することができます。質問等ありましたら、いつでも
来てください。



アメリカ・イエール大学にて



プログラム紹介（現高1・高2対象）

AIG 高校生外交官プログラム（国内及び海外）

保険会社AIGが主催するプログラムでアメリカで実施されるプログラムと日本国内で実施するプログラムの2種類があります。2つのプログラムを合わせて校内からは最大4名が応募できます。5名以上の場合は校内選考を実施します。

①AIG 高校生外交官渡米プログラム

期間：2020年7月14日（火）～8月4日（火）

人数：40名（男女20名ずつ）

訪問地：ワシントンD.C.、ニューヨーク市等を訪問するツアーパート、ホームステイパート、プリンストン大学でのエクスチェンジパートを実施予定

資格（抜粋）：中学校入学以降※、合計365日以上海外滞在経験を持たない者（留学、旅行も含む） ※4月1日から換算

AIG 損害保険株式会社並びにAIGグループ会社の関係者（社員、ICA/CCA社員、代理店の保険業務従事者等）の家族でない者

選考：1次は書類審査、2次は3月20日～22日のいずれか指定された日に実施

参加費：個人的な費用以外は無料

②AIG 高校生外交官日本プログラム

期間：2020年7月23日（木）～8月4日（火）

人数：20名（男女10名ずつ）

場所：関西セミナーハウス（京都市左京区）京都までは各自で集合

資格（抜粋）：海外渡航経験は問わない

AIG 損害保険株式会社並びにAIGグループ会社の関係者（社員、ICA/CCA社員、代理店の保険業務従事者等）の家族でない者

選考：1次は書類審査、2次は3月20日～22日のいずれか指定された日に実施

2次は英語試験、面接(原則として英語)、グループ実習

参加費：個人的な費用以外は無料

校内申し込みスケジュール

このプログラムは全て学校を通じて申し込むことになっていますので個人での申し込みはできません。1月10日（金）の午後3時30分までにグローバル教育部に申し込み希望の旨を紙に書いて（書式は問いません）提出して下さい。その際に①志望動機と②渡米・国内・併願の区別を記載して下さい。手書きで結構です。締め切り厳守でお願いします。5名を越えた場合は何らかの形で選考を実施した後に、正式な申し込み書類を作成していただきます。

プログラム及び応募条件の詳細は以下のURLでご確認下さい。

<http://highschooldiplomats.org/index.html>